

地域の農業を守り、水田拡大で収益力強化を目指す！！

定秀 悠介

1. 要旨

高齢化により離農する人が増え、耕作放棄地が増加しているという現状を食い止めるため、乾燥施設・乾燥機一式やコンバインを導入し規模拡大や作業効率の向上を図り、自身の経営を安定させ、耕作放棄地の受け皿となって地域の農業を守り農業の活性化に貢献していきます。

2. はじめに

私は平成29年から琴浦町で就農し、主に〇〇地区の圃場を中心に水稻の栽培・受託作業とブロッコリーの栽培を行っています。令和2年に認定農業者として認められ、また実質化した人・農地プランの中心経営体として位置づけられています。就農当時は水稻1ha、ブロッコリー1.3haだったものが令和3年現在では水稻5.1ha、ブロッコリー4.8haと年々規模を拡大しており、今後も規模拡大を目指しています。また、受託作業については親せきの方が請け負っていた水稻作業全般の後継者として共同で作業を行い、平成29年では2人で稲刈り約20haだったものが令和3年現在では約25haを担い（私が約12ha担当）、規模を拡大しています。親せきの方は〇〇と高齢であり、引退すると受託作業を一手に引き受けることになり大幅に規模が拡大します。

琴浦町では農家の高齢化が進み、離農する方や規模を縮小する方が増えており、耕作放棄地も増えています。地域の農家が作れなくなった農地の受け皿となって農地を集約し、規模を拡大していくことで琴浦町の主要産業である農業を守り、自身の経営も安定化させていきたいと考えております。

規模を拡大する際、ブロッコリーでは反当の作業時間が多く作業の大部分を人の手で行うため肉体的負担が大きいです。また気候により収穫時期が重なると収穫できずに取り残してしまうこともあり大幅な規模拡大が困難です。一方で、水稻は機械化が進んでおり作業のほとんどを機械でこなせるため、収益を上げる体系を構築すれば規模拡大も容易であり、かつ長く農業を続けていくことが可能です。水田拡大をしていくうえでの問題点として、稲刈り作業は天候に左右され限られた時間の中で自身の水稻と作業受託の稲刈り作業をしなければならず、作業遅れによる品質低下や稲の倒伏による作業効率の低下や機械の故障の原因になる等があります。現状のコンバイン1台では作業が間に合わないため、コンバインを1台導入し2台体制で作業を進めたいと考えています。また現状、米は全量農協出荷であるため手数料が高くなり、面積を拡大しても大きな収益が見込めず規模拡大が難しくなっている状態です。さらに今年は籾乾燥手数料が上がりコストアップに追い打ちをかけています。このため乾燥調製施設を整備し自身で処理することで経費を削減したり、新たな

販路を模索したりするなど水稲での収益強化を図り、規模拡大につなげていきたいと考えています。また現在自身とアルバイト2名で仕事を行っており、機械化による省力化を図っているところですが、機械の増加に伴い置き場を確保できず機械導入の妨げになっているため機械庫としても活用できる施設の建設を考えています。

これにより今後も高齢化などにより作れなくなった農地の受け皿となり地域の農業を守ることで、地域の方々に信頼してもらい、かつ自身の経営も安定させることで持続可能な農業を実現し地域農業の維持、発展に良い循環を生み出したいと考えています。

3. 現状

(1) 経営面積

(単位：a)

項目		平成 29 年	平成 30 年	令和 1 年	令和 2 年	
経営耕地		277.1	408.6	667.6	973.3	
	うち所有地				13.4	
	うち借地	277.1	408.6	667.6	959.9	
栽培 面積	水稲	きぬむすめ	100	80	150	250
		星空舞			50	100
		コシヒカリ		50		
		水稲合計	100	130	200	350
	ブロッコリー	130	250	390	550	
作業 受託	稲刈		880	1054	1160	

(2) 水稲収支状況

(単位：円)

		平成 29 年	平成 30 年	令和 1 年	令和 2 年
収入	水稲				
	受託作業				
	売上高合計				
支出					
水稲収益					

4. プラン目標

(1) 経営面積目標

(単位：a)

項目		令和3年 (現状)	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	
経営耕地		1168	1200	1350	1500	1650	
	うち所有地	13.4	0	0	0	0	
	うち借地	1154.6	1200	1350	1500	1650	
栽培 面積	水稲	きぬむすめ	347.2	350	450	400	400
		星空舞	169.8	200	200	200	200
		コシヒカリ		150	150	150	200
		日本晴				150	200
	水稲合計	517	700	800	900	1000	
	ブロッコリー	483	500	550	600	650	
作業 受託	稲刈	1100	1200	1300	2000	2000	
	乾燥			200	200	200	

(2) 水稲収支目標

(単位：円)

		令和3年 (現状)	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
収入	水稲					
	受託					
	合計					
支出						
水稲収益						

100%	1,056%	1,261%	1,241%	水稲収益
100	118	141	153	収入合計

5. 課題、対策

【課題および問題点】

●水稲の収益を向上させる

(1) 水稲栽培で大きな収益を得られていない

- ① ライスセンター稼働日しか稲刈りを実施できず刈遅れが生じ品質が低下している。
- ② 受託を優先するため自身の水稲では稲の水分状態が高いまま稲刈りを行い、乾燥料金が高くなっている。また、今年度から農協の乾燥料金が3円/kg上昇し、さらに経費がかさんだ。

●作業を効率化し規模を拡大する

(2) 機械が増えて置き場が確保できない

- ① 現状借りている機械格納庫では機械を配置する容量が足りず、手前に置いてある機械をいったん外に出さないと他の機械を使うことができないため作業効率が悪い。
 - ② 機械置き場が確保できないと、入りきらない機械は屋外で管理しなければならず、雨や潮風により機械に悪影響を及ぼす恐れがある。
- (3) 栽培面積や受託面積の増加に伴い、作業が間に合わなくなる
- ① 年々借受ける農地は増加しているが、ブロックリーの大幅な規模拡大は困難であり、かつ水稻の作付を増やすにも現状の機械装備では作業が間に合わないため作付できず休憩させる農地が出てきており無駄が生じている。
 - ② 現在2人で約25haの受託の稲刈りを行っており、令和5年から6年にかけて共同作業者が引退し一手に引き受けることになるため栽培面積や受託面積が増加予定である。また、農家の高齢化に伴い離農する方が増えればさらに規模が拡大する。現状のコンバイン1台では1日に稲刈りできる量が限られ作業の遅れが生じる。
 - ③ 一人では手が足りず作業が間に合わない。

【対策】

- (1) 自身で乾燥調製を完結できるよう設備を導入する
- ① 乾燥機を導入することでライスセンターの稼働日にかかわらず稲刈り作業ができ、作業遅れを解消できる。また色彩選別機を導入することで未熟な米や斑点米を減少できる。これにより1等米比率を向上し、販売単価を上げることができる。
 - ② 乾燥機を導入することで燃料費のみで乾燥が可能となり、乾燥委託料を削減できる。また、米の水分量をあまり気にせず刈り取りすることができ、効率的な収穫作業が可能となる。
- (2) 効率的な機械の使用を実現するため機械格納庫を建設する
- ① 格納庫を建設し機械収納場所を増やすことで余裕のある機械配置を可能にし、機械の出し入れや作業機の付け替えの時間を削減できるため、作業効率が向上する。
 - ② 格納庫の建設により、機械を屋外で管理する必要がなくなり、機械の寿命を延ばすことができる。また、新たな機械導入が可能となる。
- (3) 作業時間短縮のためコンバインを1台追加導入する
- ① 新たにコンバインを1台導入することで、水稻作付面積を拡大しても稲刈り作業に対応できるため、圃場を休憩させることなく有効的に活用できる。
 - ② 一日の刈り取り面積が増えるため、規模拡大しても適期作業が可能になる。これにより刈り遅れによる米の品質低下を防ぐことができるほか、稲の倒伏前に刈り取りを実施でき作業効率を上げることができる。
 - ③ ハローワークでの募集や地元の人を紹介してもらい、令和5年より常時雇用を1人確保し、作業・技術を身に着けることで令和6年のコンバイン導入から2台のコンバインを同時稼働でき作業効率を向上できる。また、圃場の栽培管理においても人手不足に対応でき、規模拡大が可能となる。

6. プランの効果

●コンバインを導入することで作業効率が大幅に向上するため、水稻作付面積の拡大に対応でき、水稻の規模拡大が可能となる。

●乾燥施設と乾燥機一式を導入することにより、経費の削減ができる（下表参照）。また、作業の効率化にもつながる。さらに色彩選別機を導入することで米の品質向上ができ、個別で販売する道を広げることで有利販売していき水稻の収支を向上し経営を安定化できる。

乾燥機導入ありの場合

(単位：円)

項目	令和2年 (実績)	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
動力光熱費						
賃料料金						
合計						

乾燥機導入なしの場合

(単位：円)

項目	令和2年 (実績)	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
動力光熱費						
賃料料金						
合計						

↓

水稻で収益向上の体系を確立することでさらなる規模拡大を可能にし、かつ肉体的負担を軽減することで持続可能な農業を実現できる。

↓

今後高齢化などにより離農が進んでも農地の受け皿となって作付面積を拡大することができ、耕作放棄地の解消に貢献できる。また、経営を安定化させることで新たな雇用を生み出すことができる。これらを通して琴浦町の主要産業である農業を守り、盛り上げていくことができる！！

7. 今後の計画・役割分担

今後の計画

項目	令和4年	令和5年	令和6年	分担
機械格納庫の建設	◎			県・町・事業主体
乾燥調製設備の導入		◎		県・町・事業主体
コンバインの導入			◎	県・町・事業主体
規模拡大	○	○	○	事業主体
雇用創出		○	○	事業主体

支援事業の内容

年度	項目	能力	台数	事業費 (税抜)	負担区分(円)		
					県(1/3)	町(1/6)	本人(1/2)
令和4年	機械格納庫	40坪	1	10,480,000	3,000,000	1,500,000	5,980,000
令和5年	乾燥機一式	35石	2	8,597,000	3,000,000	1,500,000	7,592,000
	糶摺機	5インチ	1	1,015,000			
	色彩選別機		1	2,480,000			
	令和5年合計			12,092,000			
令和6年	コンバイン	4条	1	10,800,000	3,000,000	1,500,000	6,300,000
合計				33,372,000	9,000,000	4,500,000	19,872,000